

JTRUST

2019年3月期第3四半期

決算説明資料

2019年2月

Jトラスト株式会社

- 1. 2019年3月期 第3四半期決算での施策と今後の戦略**
- 2. 2019年3月期 第3四半期決算のポイント**
- 3. 2019年3月期 第3四半期連結決算概要**
- 4. セグメント別業績**

- 2018年3月期より国際財務報告基準（IFRS）を採用しています。
- 2019年3月期第2四半期の連結業績より、売却を決議したハイツ・エンタテインメント社の業績を非継続事業として分類しており、前年同期の「営業収益」及び「営業利益」も同様に分類して表示しております。
- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 各ページに記載の数値は、原則として表示単位未満を切捨て表示しています。また表およびグラフ横に記載しております差異ならびに前年同期比等は、表示の億単位を用いて計算しております。

1. 2019年3月期 第3四半期決算での 施策と今後の戦略

代表取締役社長
最高執行役員
藤澤 信義

➤ 2019年3月期 第3四半期決算での施策と今後の戦略

- ✓ 投資事業について
- ✓ 東南アジア金融事業について
- ✓ 日本金融事業について
- ✓ 今後の利益の方向性について
- ✓ 社長所感

➤ 投資事業に係る貸倒引当金の計上

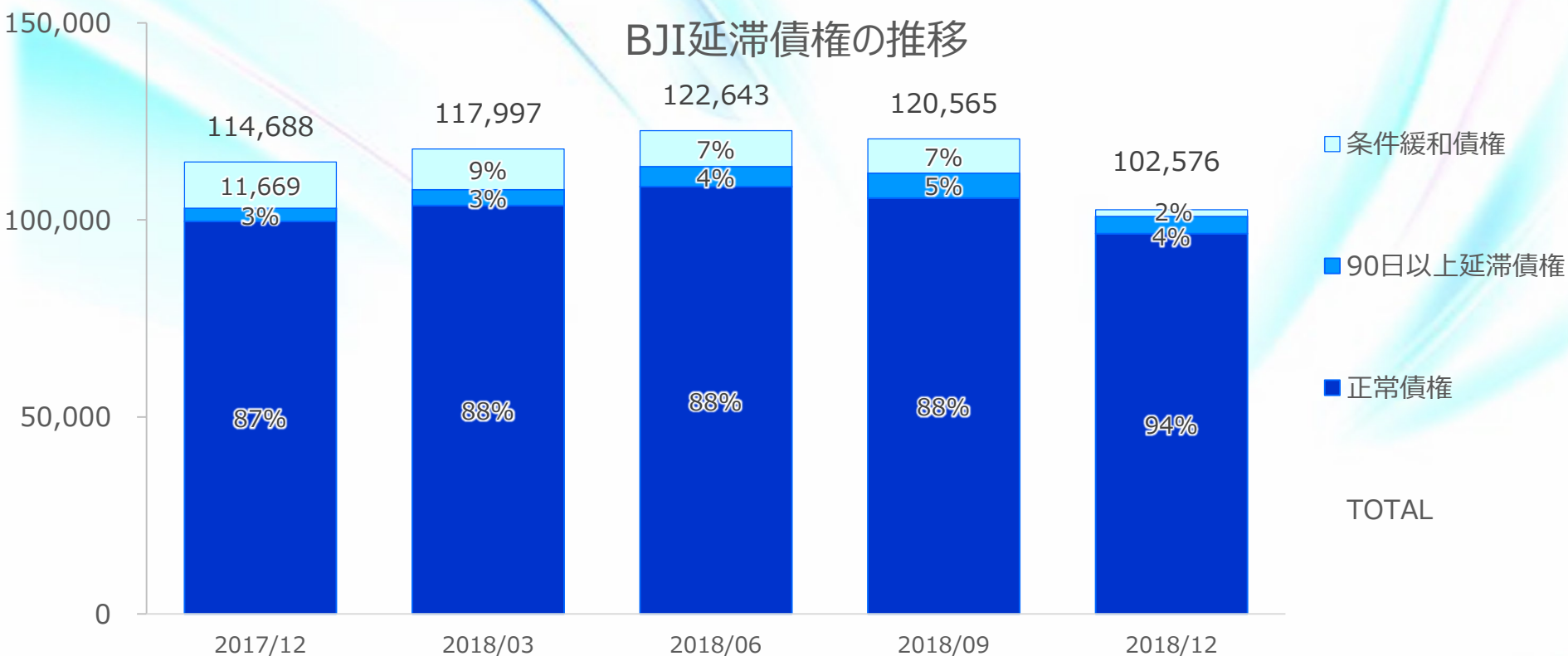
- ✓ Group Lease PCLに対する債権について、その全額に対して貸倒引当金を引き当てることとし、
199億円を貸倒引当金繰入額として計上した

**将来の回収金は利益計上される
回収に尽力することで、収益がV字回復**

➤ Jトラストインドネシア銀行に対する施策

✓ Jトラスト銀行インドネシアの不良債権及び予備軍を一括処理

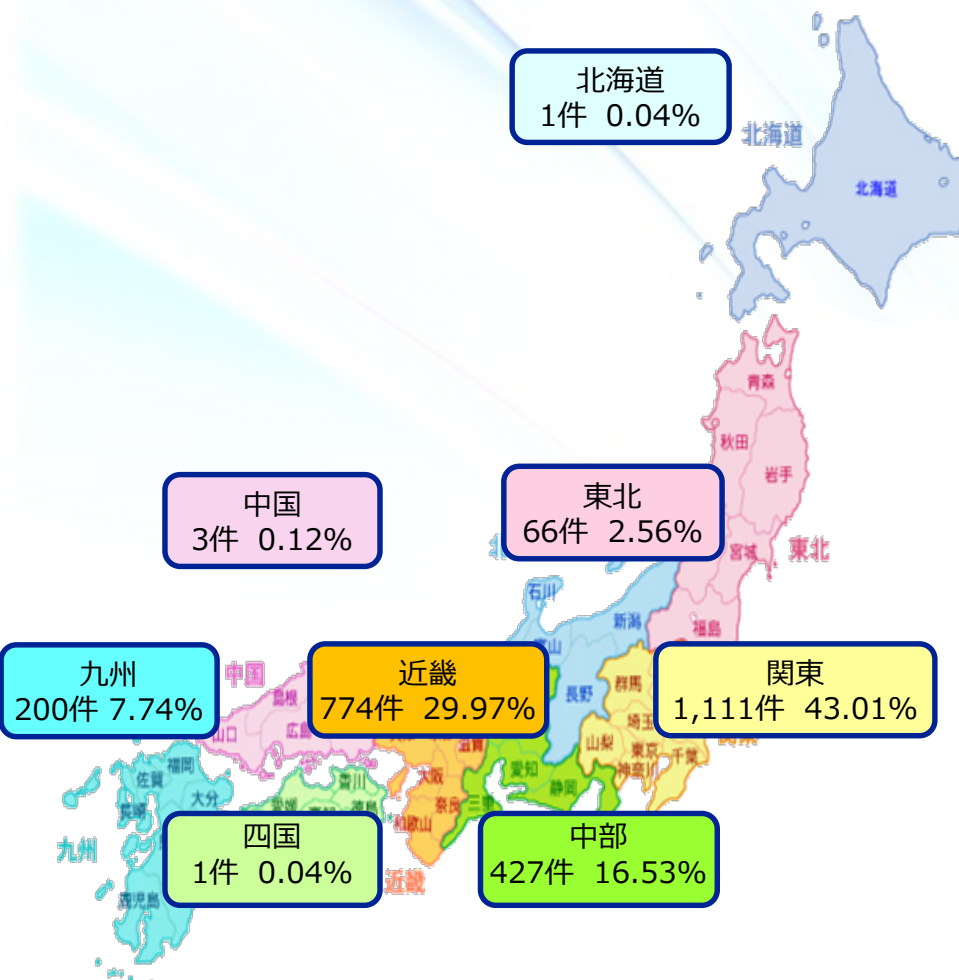
単位：億ルピア



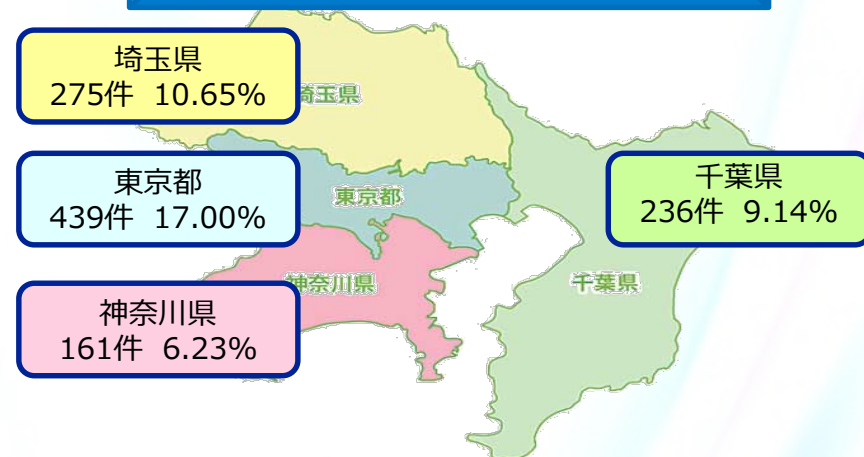
※ BJI＝Jトラスト銀行インドネシア
※ 現地会計基準による延滞債権の推移
参考レート：1ルピア＝0.0077円（12月末日の決算日レート）

➤ アパートローン保証

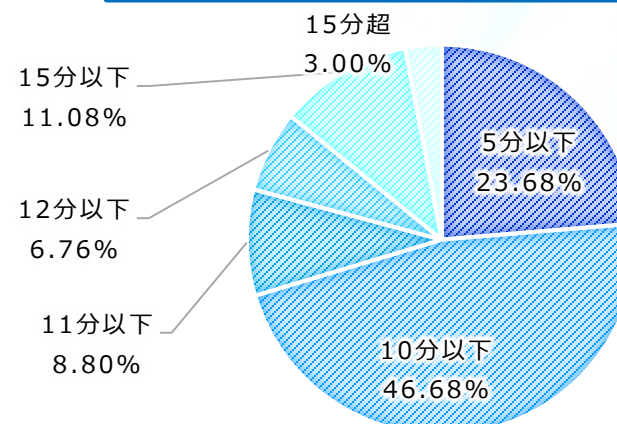
エリア別承認分布



関東圏承認分布

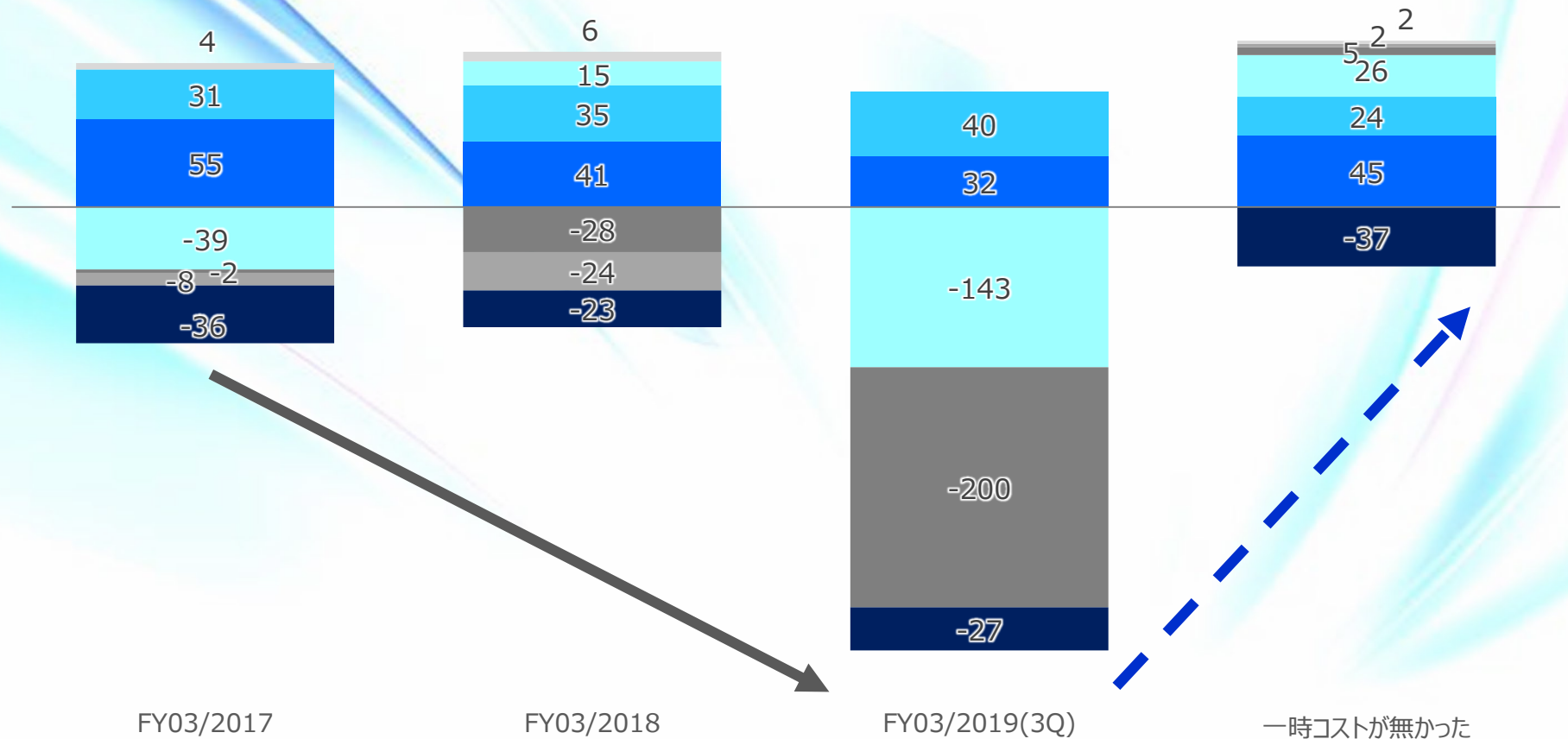


最寄駅からの距離（徒歩）



➤ 今後の利益の方向性

単位：億円



FY03/2017

FY03/2018

FY03/2019(3Q)

一時コストが無かった

場合の利益水準

(参考として期初予想数値を掲載)

凡例

日本金融事業

韓国及びモンゴル
金融事業

東南アジア
金融事業

投資事業

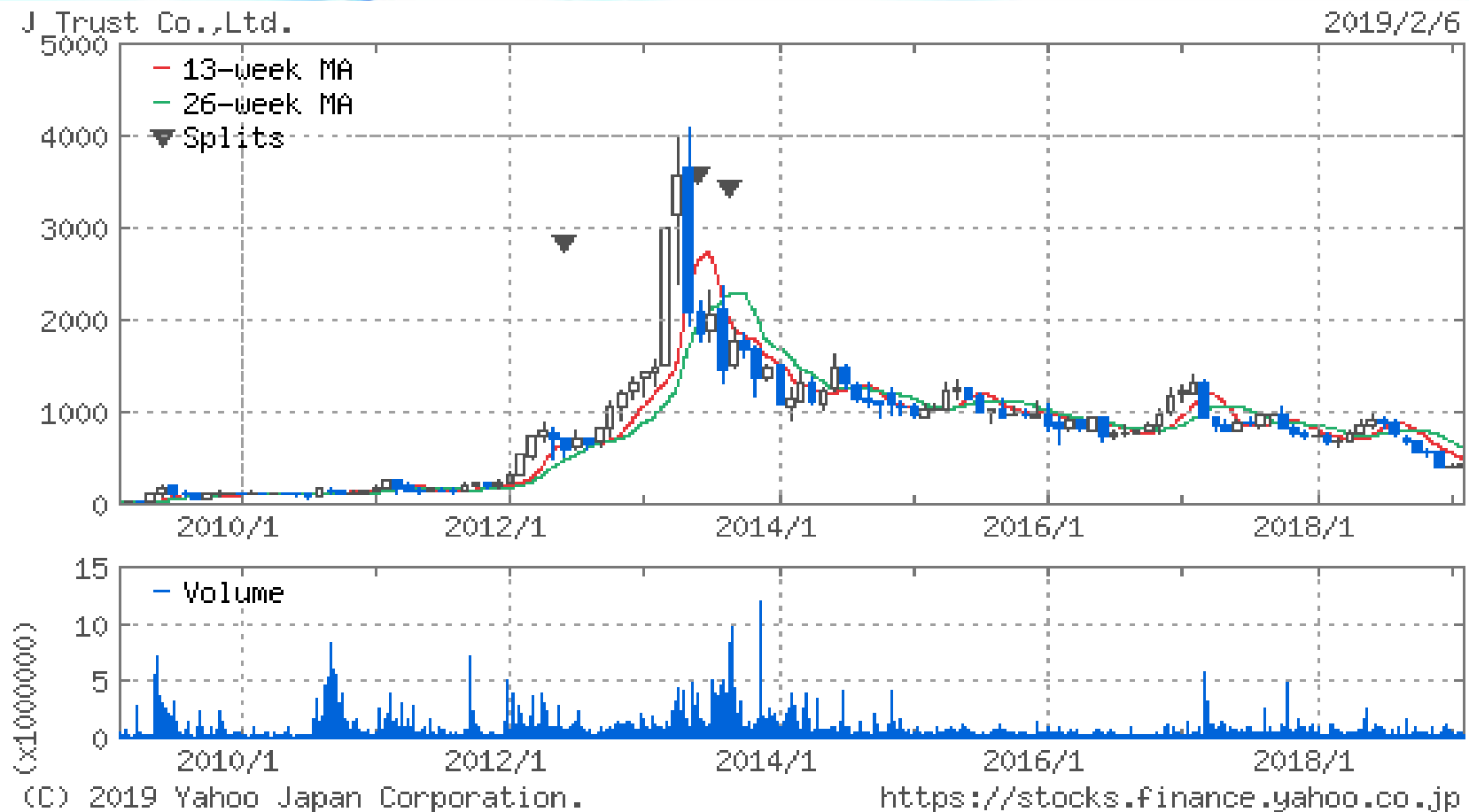
全社費用等

総合エンター
テインメント事業

不動産事業

➤ 社長所感：これまでの振り返りと株価についての考え方

株価の推移



2. 2019年3月期第3四半期決算のポイント

取締役 執行役員
経営企画部部長 広報・I R 部門担当
山中 威人

- 利益のV字回復を目指し、現時点で考え得る限りのリスクに対し手当て

投資事業

貸倒引当金 3Qに195億円を計上

東南アジア金融事業

貸倒引当金 3Qに115億円を計上

**来期からの業績V字回復を目指すための
準備が完了**

3. 第3四半期 連結決算概要

➤ 前年同期比減収減益

連結業績（前年同期比）

	Q3 FY03/2018	Q3 FY03/2019	差異
営業収益 [※]	569億円	551億円	-18億円
営業利益 [※]	35億円	-297億円	-332億円
税前利益 [※]	24億円	-286億円	-310億円
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	-0億円	-327億円	-327億円

※ 営業収益・営業利益・税前利益には非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示しています。

➤ 日本及び韓国金融事業は安定した収益を計上

セグメント別営業収益（前年同期比）

	Q3 FY03/2018	Q3 FY03/2019	差異
日本金融事業	70億円	73億円	+3億円
韓国及びモンゴル金融事業	267億円	301億円	+34億円
東南アジア金融事業	105億円	94億円	-11億円
投資事業	70億円	7億円	-63億円
非金融事業	40億円	50億円	+10億円
その他の事業	14億円	24億円	+10億円
連結営業収益	569億円	551億円	-18億円

➤ V字回復を目指し、保守的にリスクを前倒し計上

- ① NPL債権の処理
- ② GL債権への貸倒引当金計上

セグメント別営業利益（前年同期比）

	Q3 FY03/2018	Q3 FY03/2019	差異
日本金融事業	34億円	32億円	-2億円
韓国及びモンゴル金融事業	30億円	40億円	+10億円
東南アジア金融事業	11億円	-143億円	-154億円
投資事業	-27億円	-200億円	-173億円
非金融事業	2億円	0億円	-2億円
その他の事業	0億円	-0億円	-0億円
（調整額等）	-15億円	-27億円	-12億円
連結営業利益	35億円	-297億円	-332億円

➤ 業績予想の修正

セグメント別営業収益及び営業利益

	営業収益			営業利益		
	FY03/2019 期初予想	FY03/2019 forecast	第3四半期 累計実績	FY03/2019 期初予想	FY03/2019 forecast	第3四半期 累計実績
日本金融事業	99億円	106億円	73億円	45億円	44億円	32億円
韓国及びモンゴル 金融事業	379億円	400億円	302億円	24億円	46億円	40億円
東南アジア金融事業	192億円	129億円	94億円	26億円	-183億円	-143億円
投資事業	12億円	9億円	9億円	5億円	-204億円	-200億円
非金融事業	133億円	83億円	50億円	4億円	2億円	0億円
その他の事業	22億円	33億円	26億円	2億円	1億円	-0億円
(調整額等)	-6億円	-7億円	-5億円	-37億円	-33億円	-27億円
連結営業収益/営業利益	833億円	754億円	551億円	70億円	-327億円	-297億円

非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示しております。

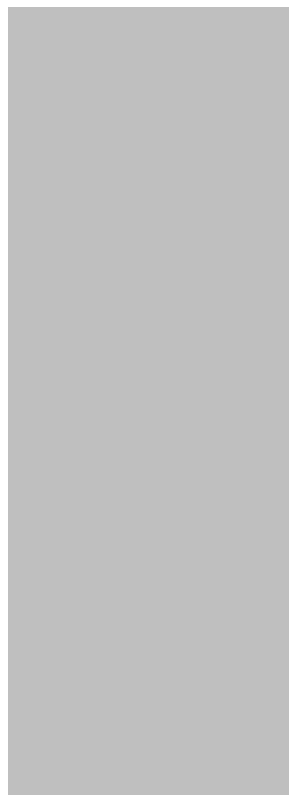
4. セグメント別業績

4-1. 日本金融事業

➤ 安定した利益水準を維持

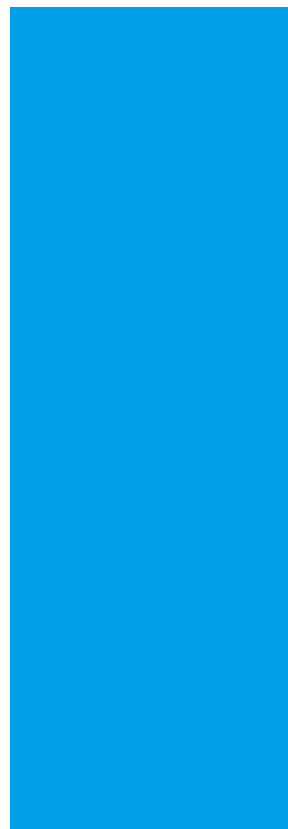
営業収益

70



Q3 FY03/2018

73

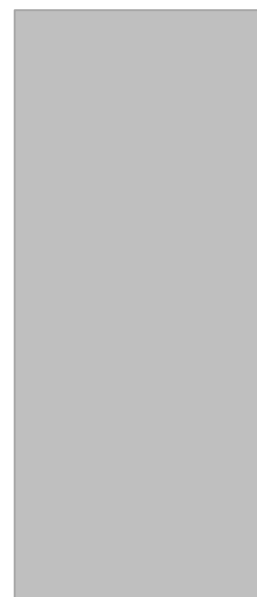


Q3 FY03/2019

営業利益

単位：億円

34



Q3 FY03/2018

32



Q3 FY03/2019

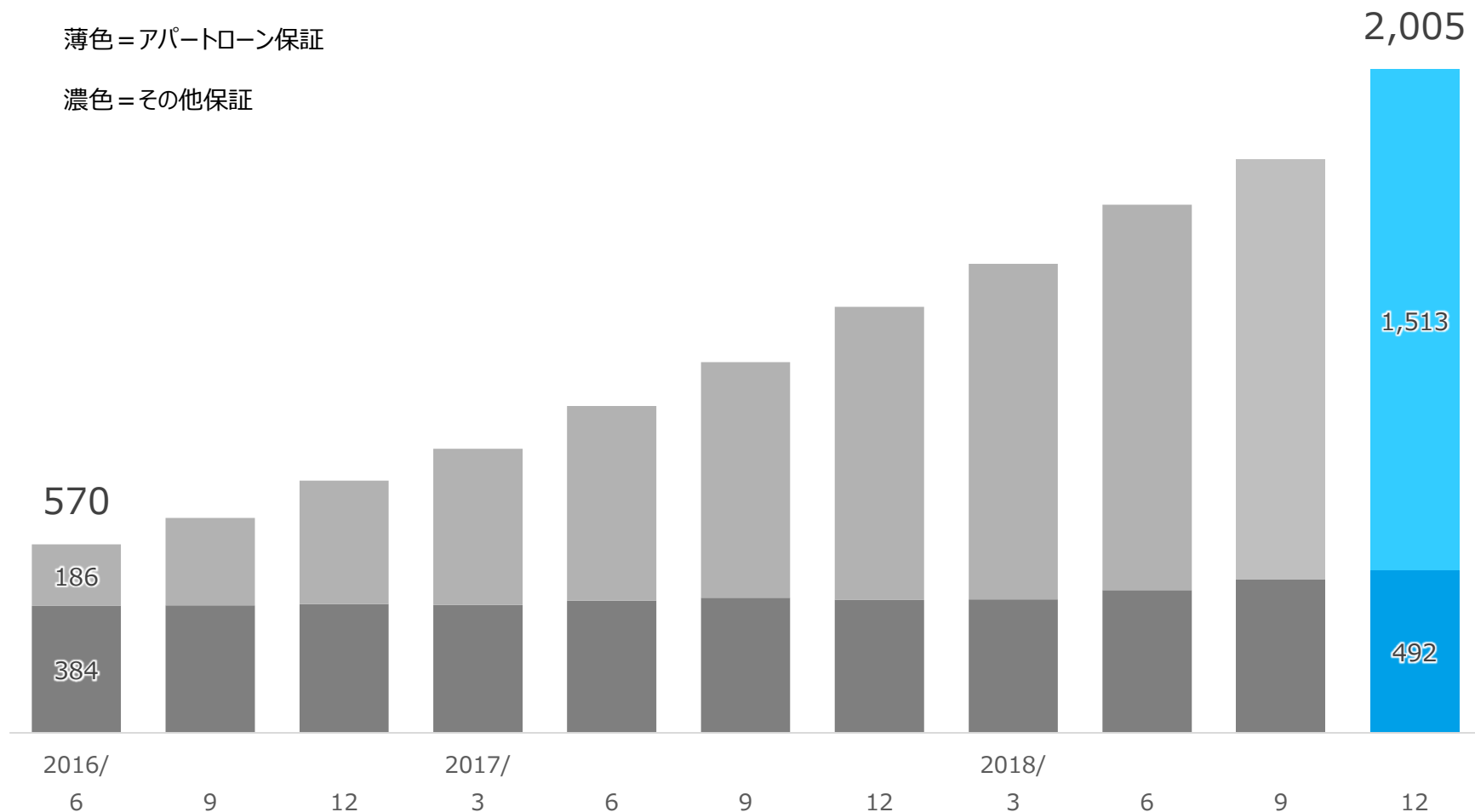
➤ 今後は保証商品の多角化を進める

単位：億円

保証残高の推移

薄色＝アパートローン保証

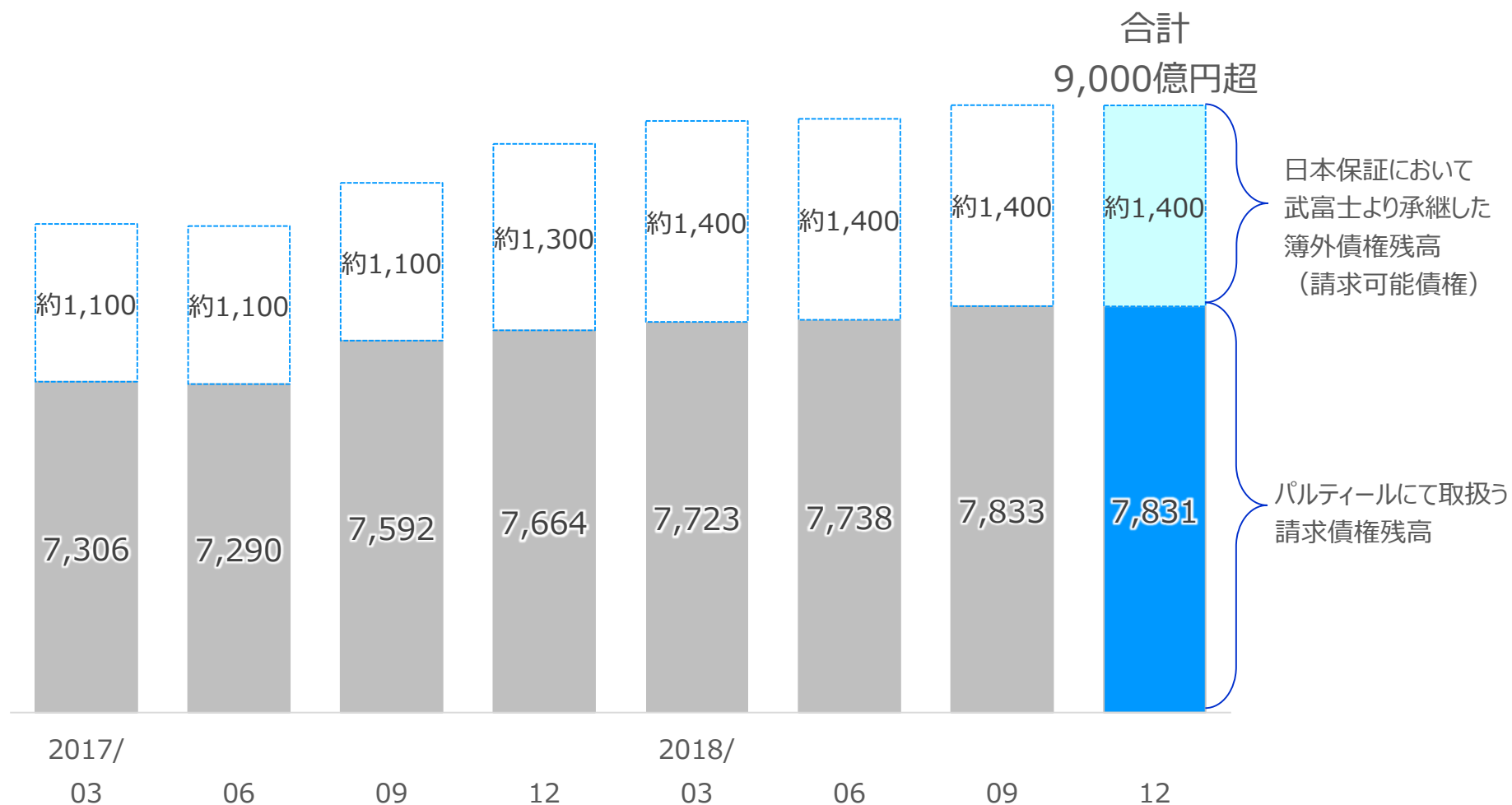
濃色＝その他保証



➤ 不良債権の買取は引き続き好調

サービサー事業における請求債権残高

単位：億円



請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む
請求債権残高に一部オンバランス債権を含む

4. セグメント別業績

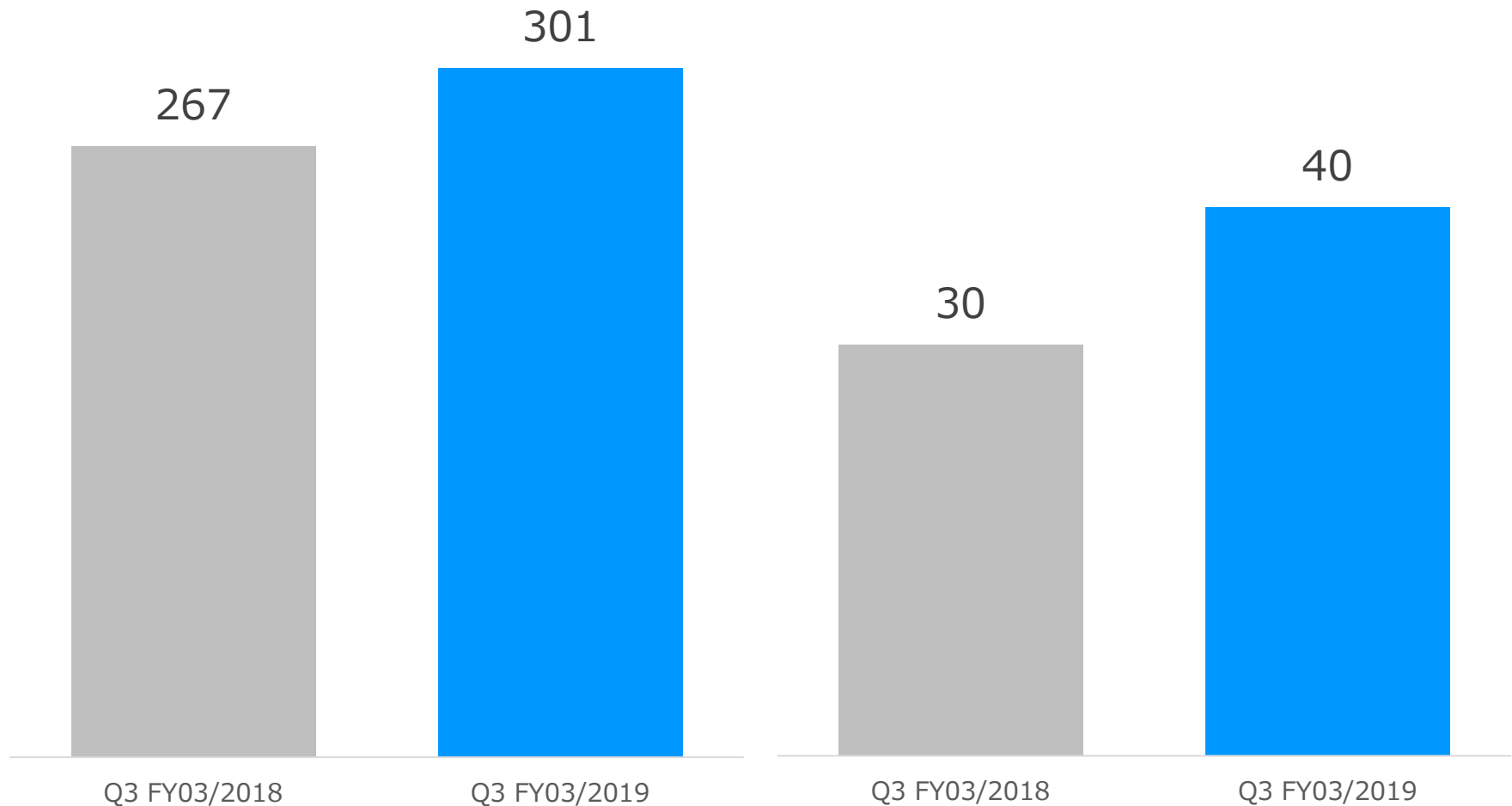
4－2. 韓国及びモンゴル金融事業

➤ 営業収益は前年同期比13% 営業利益は同比33%と増収増益

営業収益

営業利益

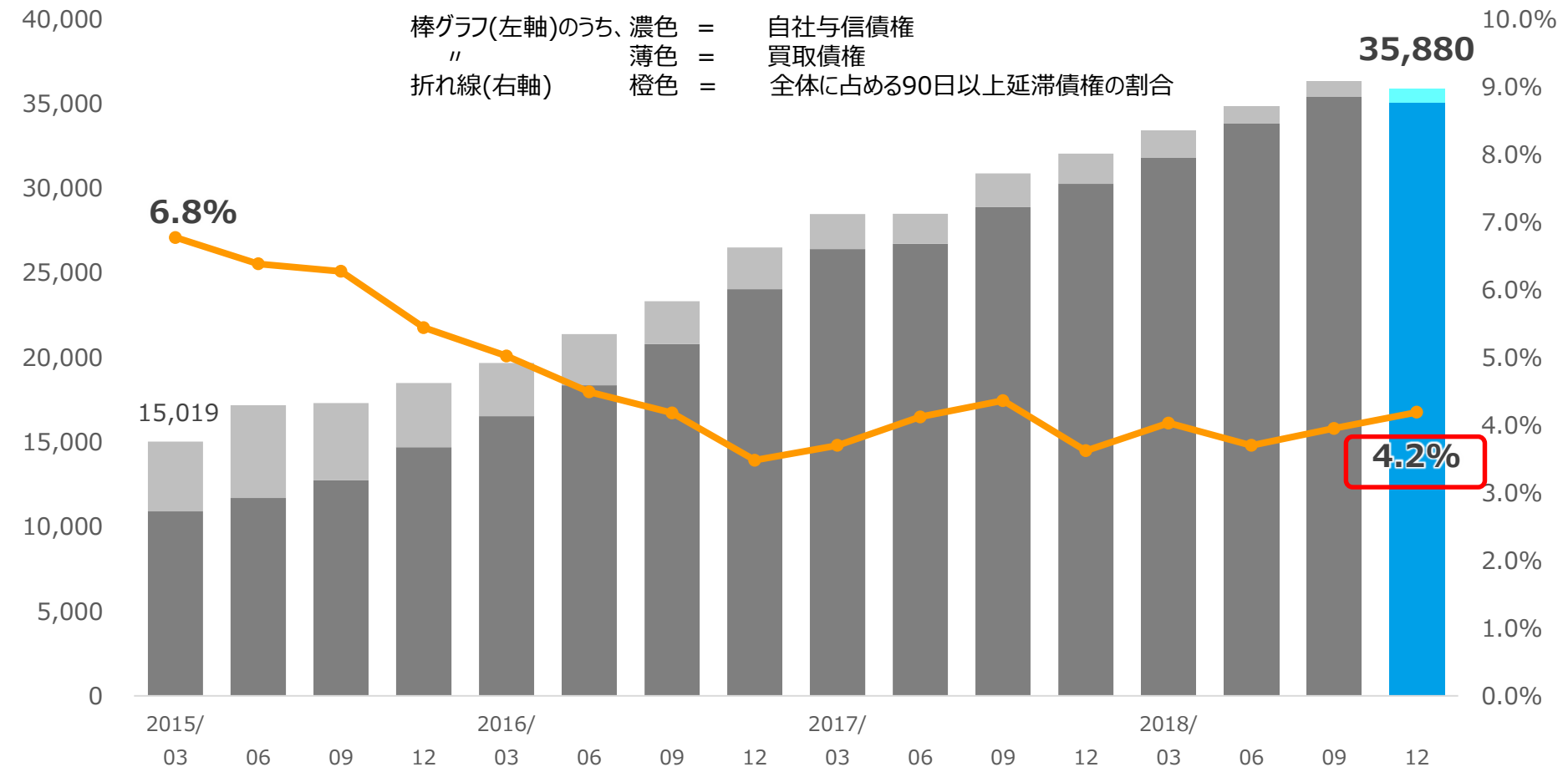
単位：億円



➤ 回収が進んだこと及びNPL債権売却により、貸出資産残高が減少

貯蓄銀行及びキャピタルの貸出資産残高と90日以上延滞債権の推移

単位：億ウォン



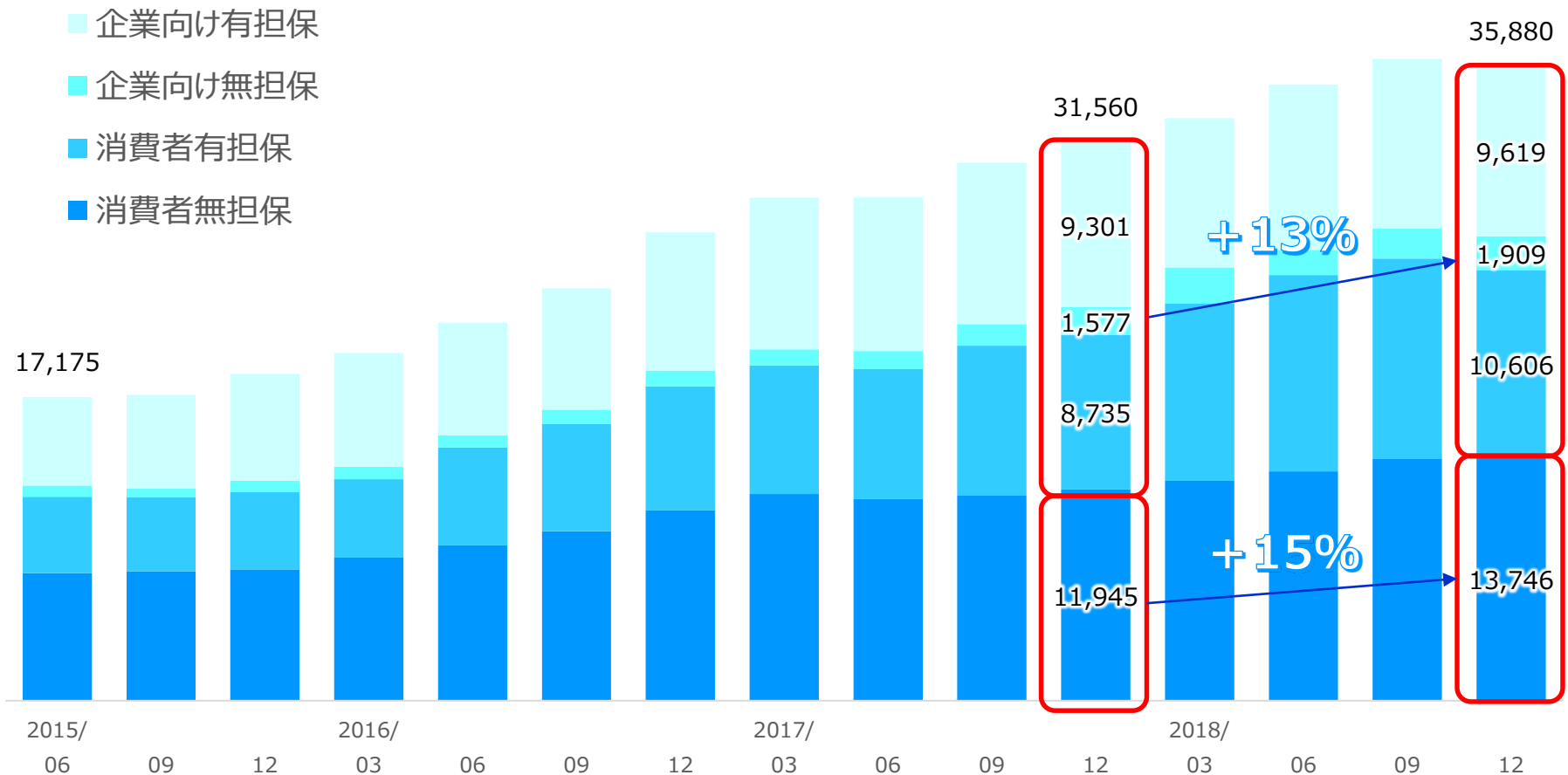
※グラフ数値は現地基準

参考レート：1ウォン=0.0994円（12月末日の決算日レート）

➤ 債権の「質」を重視した貸出を指向

貸出資産ポートフォリオ（K-GAAP基準）

単位：億ウォン

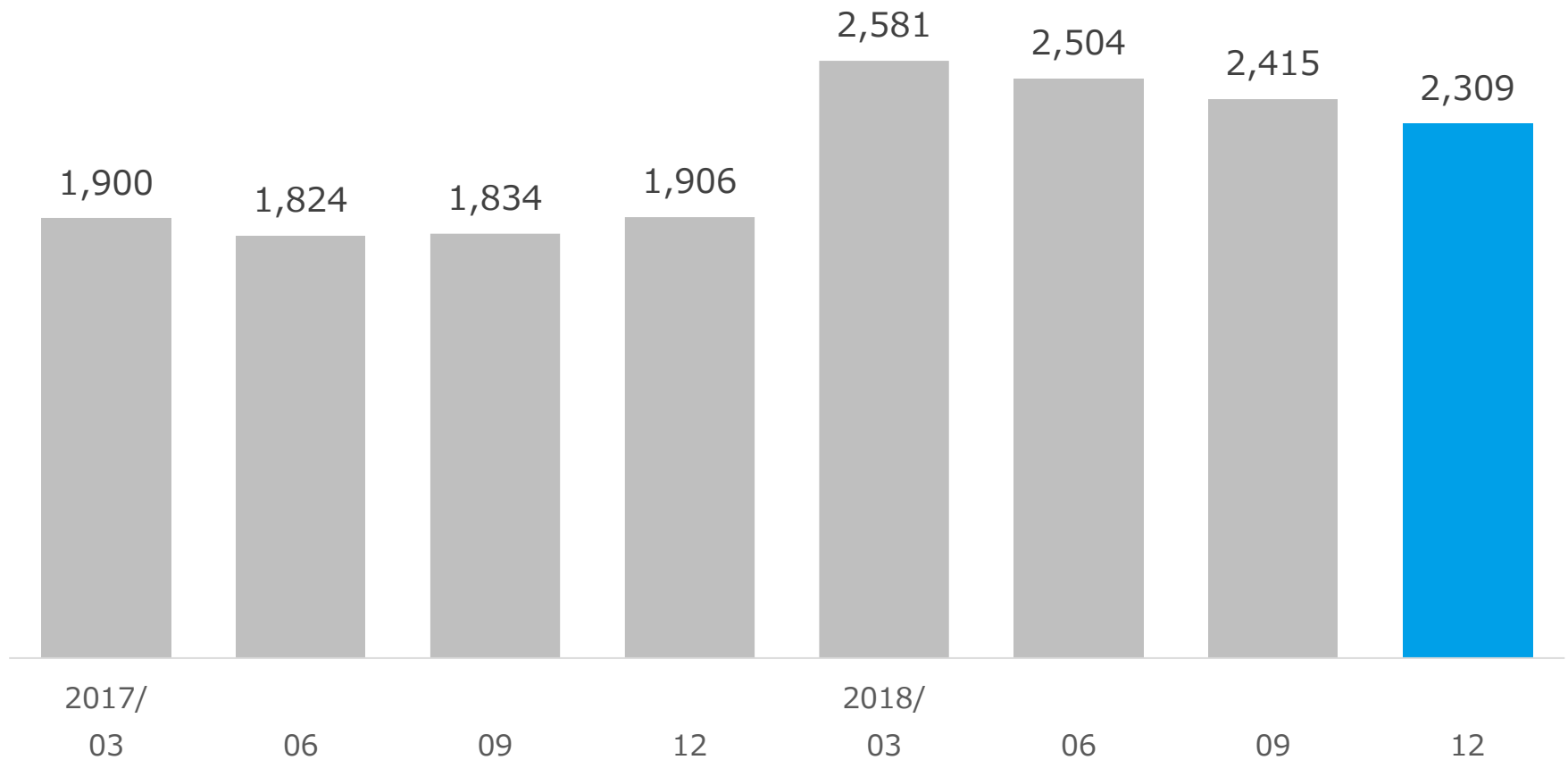


※JT親愛貯蓄銀行 JT貯蓄銀行 JTキャピタル3社合計
参考レート：1ウォン=0.0994円（12月末日の決算日レート）

➤ サービスも順調

TAアセットの請求債権残高

単位：億ウォン

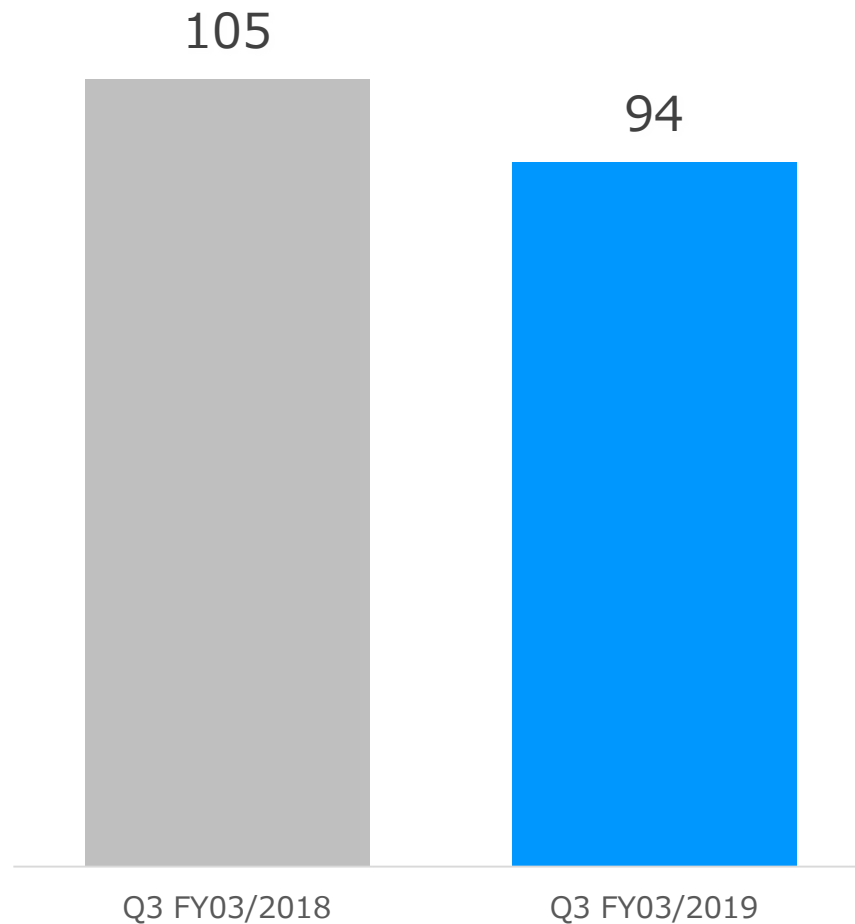


4. セグメント別業績

4－3. 東南アジア金融事業

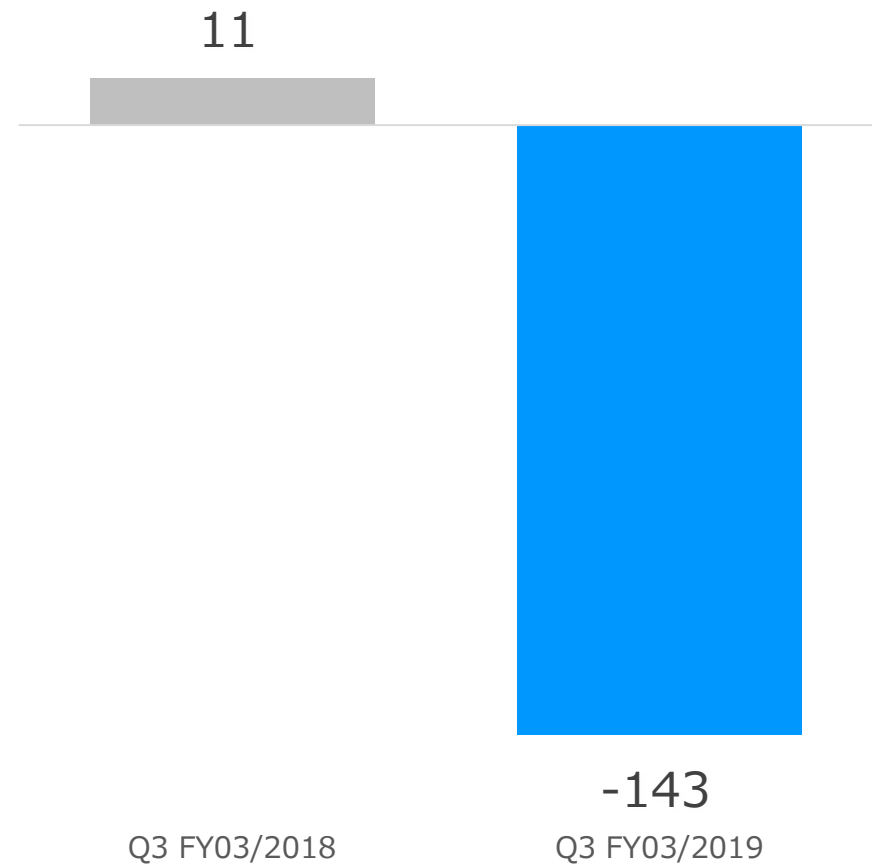
➤ 前年同期比 減収減益

営業収益



営業利益

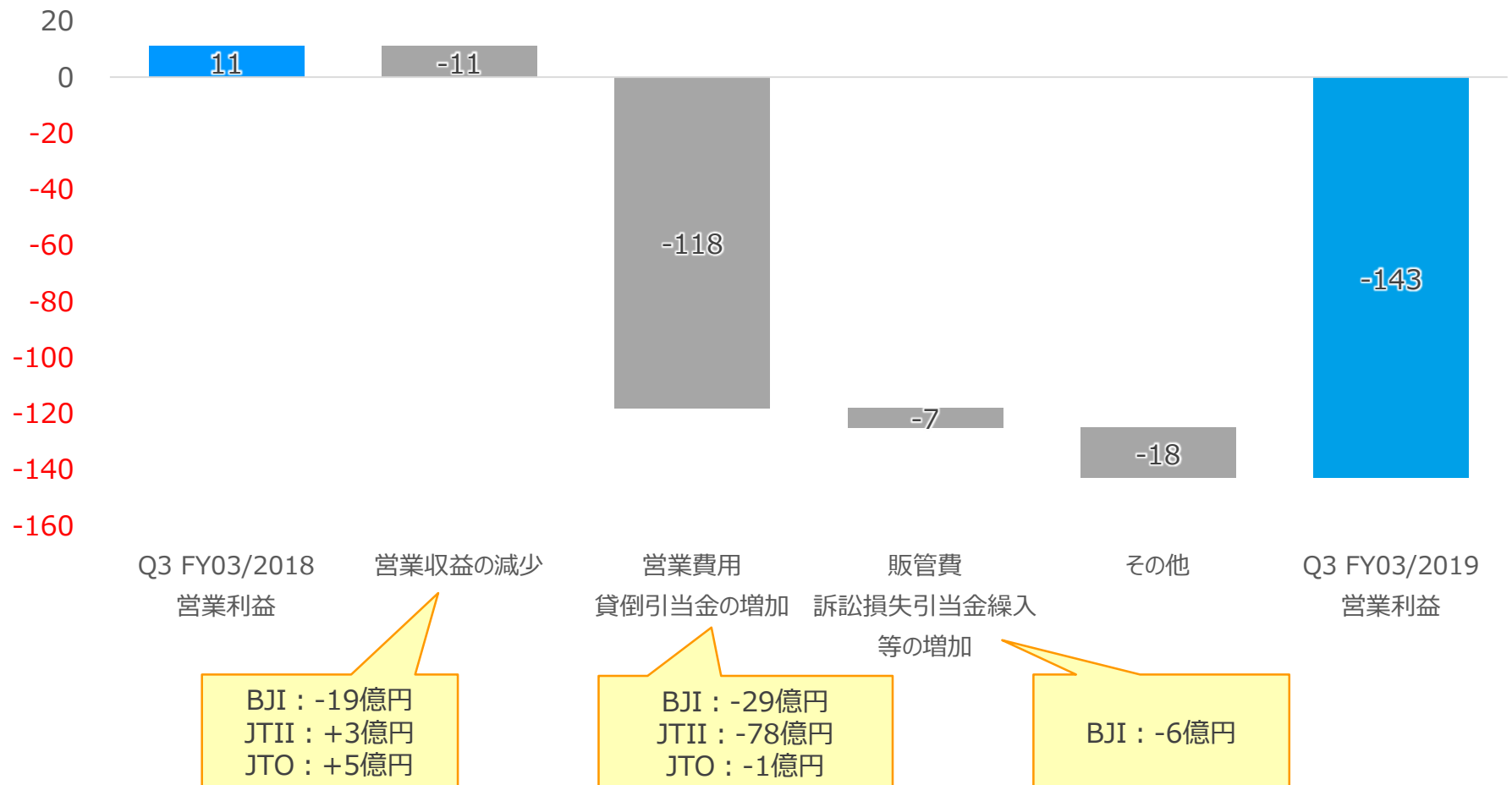
単位：億円



➤ 不良債権を一括して処理、今期貸倒引当金106億円を計上

単位：億円

セグメント営業利益の推移

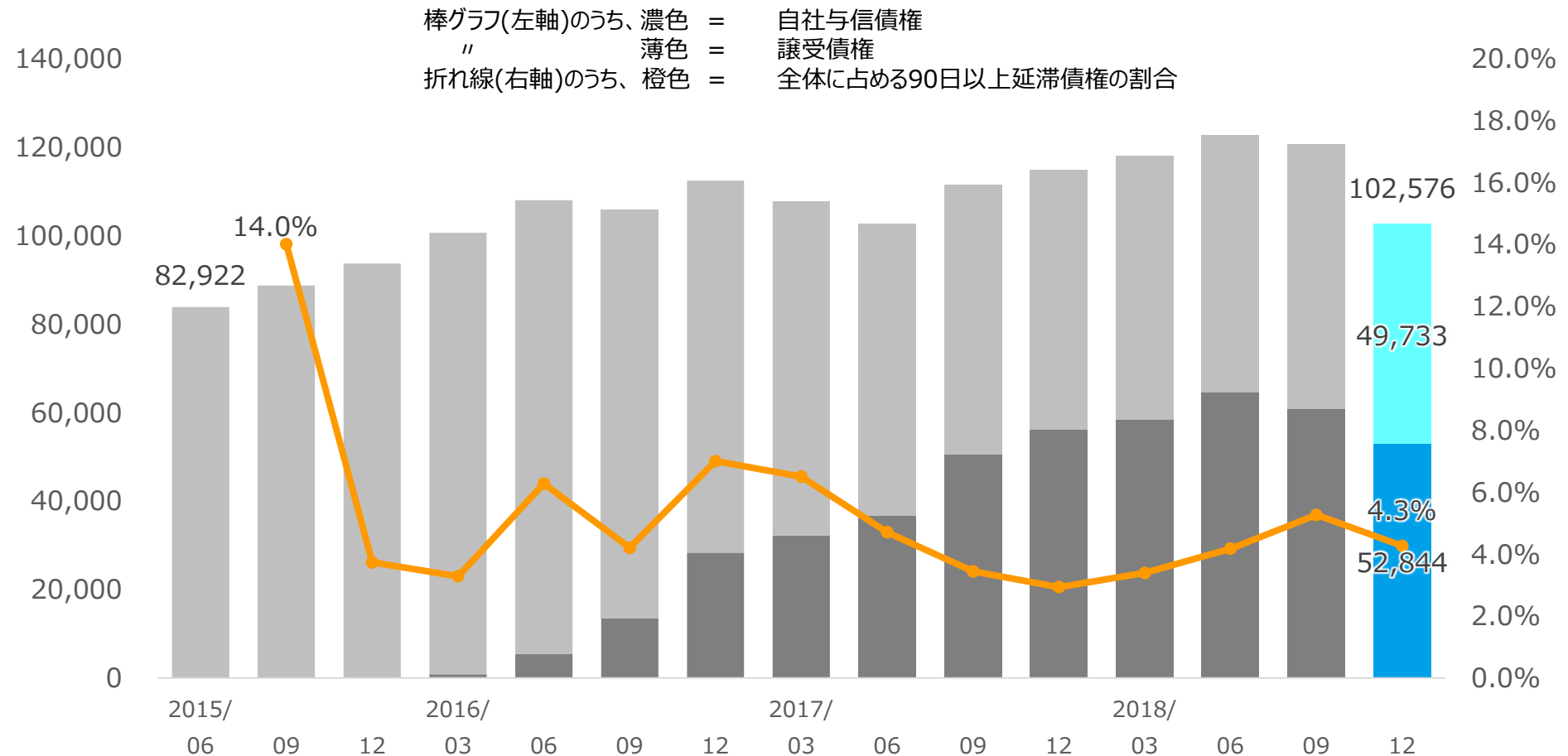


※ JTII = Jトラストインベストメントインドネシア
 ※ JTO = Jトラストオリンピンドマルチファイナンス

➤ 銀行単体での積極的な貸付は停止中 JTOを主軸とし今後貸出資産を増加

Jトラスト銀行：貸出資産残高と90日以上延滞債権の推移

単位：億ルピア

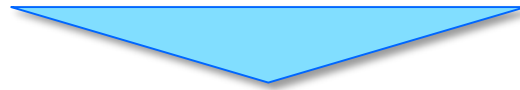


※グラフ数値は現地基準

参考レート：1ルピア=0.0077円（12月末日の決算日レート）

➤ セグメント利益の黒字化・増加を目指す

BJIからの資金調達によるJTOの積極的な資産拡大と、JTIIによる不良債権の回収



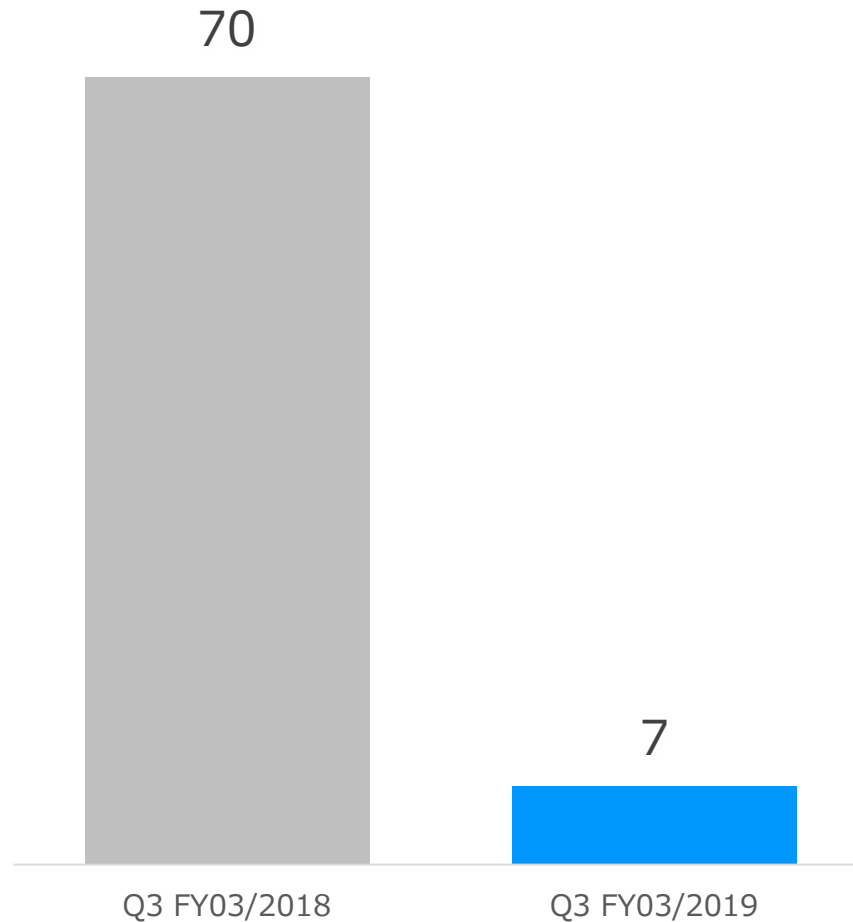
	対策
BJI 経営戦略	不良化しない債権づくりに徹底 来期中黒字化を図るための施策を継続
JTII 不良債権の回収	不良債権の早期回収を図る
JTO 貸出資産の拡大	農機ローンと中古車ローンを中心に、貸出資産の増加を図る
3社 その他	人員削減及び再教育 / 非効率支店の閉鎖 / 広告宣伝費の見直し

4. セグメント別業績

4－4. 投資事業

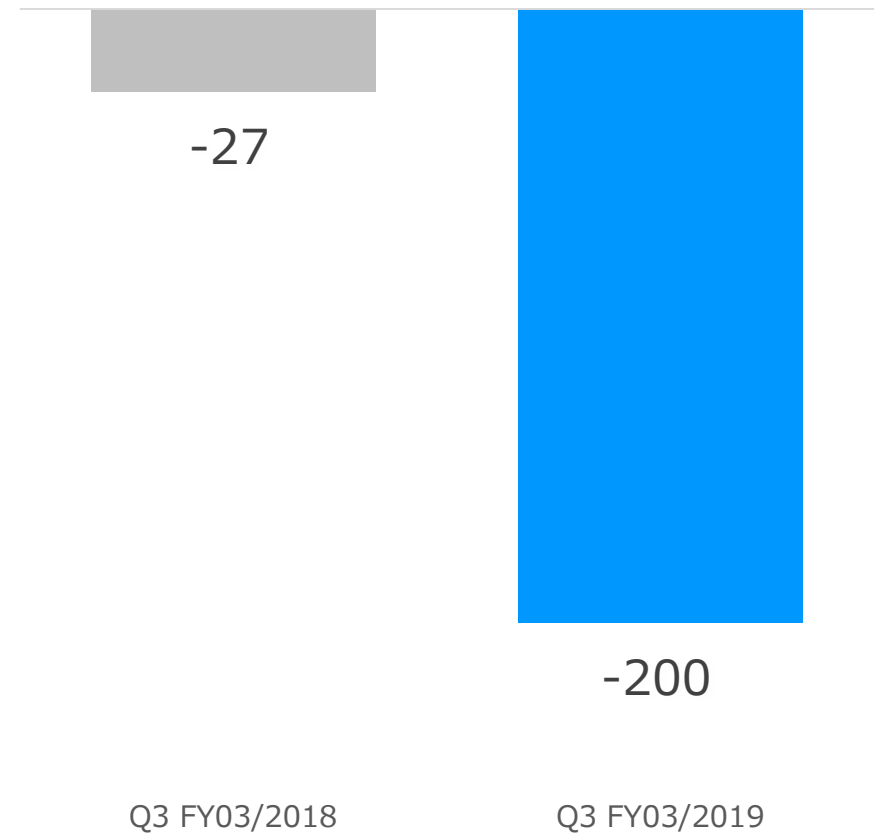
➤ JTAが保有するGLに対する債権の全額に対して貸倒引当金を繰り入れ

営業収益



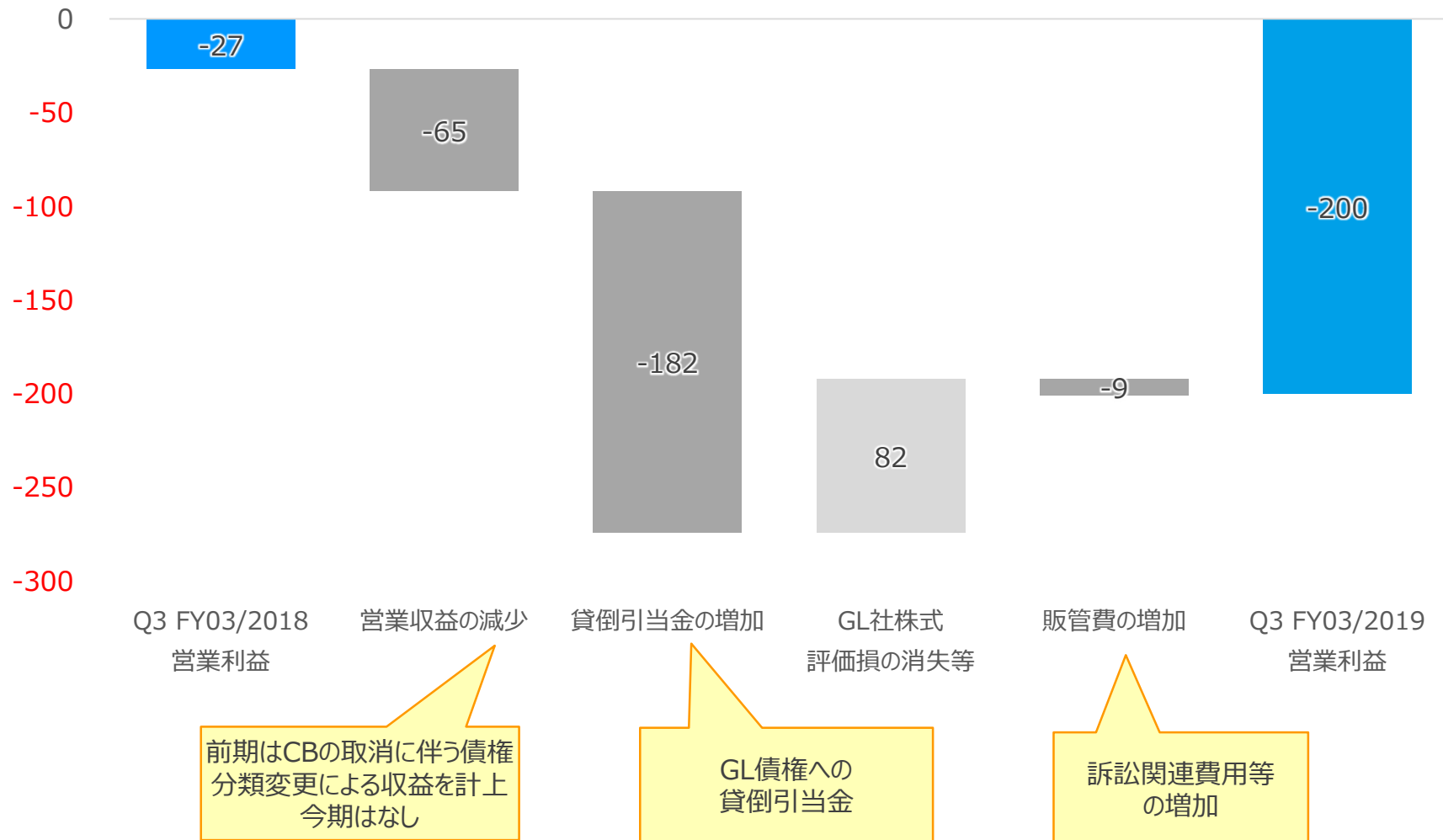
営業利益

単位：億円



セグメント利益の変化

単位：億円



4. セグメント別業績

4－5. 非金融事業

➤ 10月 ハイライツ・エンタテインメント売却 事業の選択と集中を進める

非金融事業

	FY03/2018 3Q	FY03/2019 3Q	差異
営業収益	40億円	50億円	+10億円
営業利益	2億円	0.2億円	-1.8億円

主な要因	キーノート (不動産/その他)	キーホルダー (総合エンタメ)
営業収益	62億円	11億円
営業費用/販管費/その他費用	62億円	14億円
営業利益	0億円	-3億円

